

(参考) 妊婦に対する新型コロナウイルスワクチンの追加接種の安全性

妊婦に対するmRNAワクチンの追加接種後の局所反応、全身反応の報告の調整オッズ比はそれぞれ、妊娠も授乳もしていない者と比較し、1.2、0.7であったと報告されている。

Kachikis et al¹ (JAMA Network Open, 2022)

研究内容：ワシントン大学のCOVID-19 Vaccine in Pregnancy and Lactation Registry^{*1}の登録者が対象。2021年10月以降に追加接種を受けたと回答した人に追加の調査票が配布され、追加接種後の局所・全身反応と接種体験を報告するよう依頼された。得られた回答について、追加接種時に妊娠中だった女性（妊娠群）、授乳中だった女性（授乳群）、妊娠も授乳もしていなかった女性（対照群）の間で比較し、妊娠中または授乳中の追加接種の反応性を分析した前向きコホート研究。

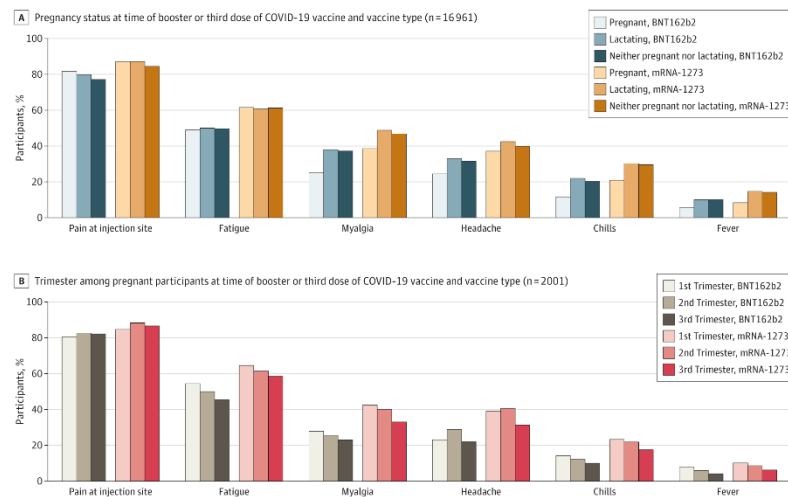
結果：17,014名（妊娠群：2,009名、授乳群：10,279名、対照群：4,726名）が解析された。妊娠群における追加接種後24時間の局所反応、全身反応の報告の調整オッズ比^{*2}は、対照群と比較し、以下の通りであった。

- 局所反応：1.2 [95%CI: 1.0–1.4]
- 全身反応：0.7 [0.6–0.8]

また、妊娠群のうち追加接種後24時間で何らかの産科的症状を報告したのは2.4%であった。

筆者らは、「同じコホートで過去に報告された2回目接種後の安全性に関する研究²と本研究を比較し、追加接種後に報告された局所・全身反応は2回目接種後と類似しており、追加接種後に報告された産科的症状の頻度は2回目接種後より少なかった」と報告している。

ファイザー社またはモデルナ社ワクチンの追加接種後の局所・全身反応 (上図：妊娠群、授乳群、対照群別、 下図：妊娠群における妊娠期間別)



※1 新型コロナウイルスワクチン接種者のうち、妊娠中、授乳中、及び/または妊娠を計画している成人を対象としたオンラインレジストリであり、2021年1月に開始された。

※2 ワクチンの種類、年齢、人種、勤務地、教育レベル、出産回数、ワクチン接種から調査完了までの経過日数で調整した。

1. Kachikis A, Englund JA, Covelli I, et al. Analysis of Vaccine Reactions After COVID-19 Vaccine Booster Doses Among Pregnant and Lactating Individuals. *JAMA Netw Open*. 2022;5(9):e2230495.

2. Kachikis A, Englund JA, Singleton M, Covelli I, Drake AL, Eckert LO. Short-term Reactions Among Pregnant and Lactating Individuals in the First Wave of the COVID-19 Vaccine Rollout. *JAMA Netw Open*. 2021;4(8):e2121310.